



## 阿南駅周辺の環境を整え マナー向上と鉄道の利用促進を図る



阿南駅周辺の環境を美しく保ち、利用者のマナー向上と鉄道の利用促進につなげようと、10月23日、高校生や団体職員など約60人が清掃活動を行いました。これは、10月14日が「鉄道の日」であることにちなんで徳島県が駅前リフレッシュ事業として実施したもので、参加者は、駅の東側と西側に分かれて、駐輪場のごみを拾ったり、自転車の整頓をしたりしました。作業は30分ほど行われ、70%のポリ袋11袋分のごみが集められました。通学でJRを利用している富岡東高等学校2年の宮本歩実さんは、「こんなにもたくさんのごみが落ちていたとは思いませんでした。マナーを守って、気持ちよく駅を利用したいです」と話していました。

## 身元調査お断り！ 道の駅で啓発ワッペンを配布



身元調査は重大な人権侵害につながるおそれがあるため、10月27日、道の駅公方の郷なかがわで、市人権教育協議会那賀川支部や市内高等学校・支援学校から約150人が参加して、「身元調査お断り」ワッペン運動を行いました。参加者は道の駅を訪れた人々に「身元調査お断り」と書かれたワッペンを手渡ししながら、人権問題の解決を訴えました。阿南工業高等学校3年の西條滉涼さんは、「差別をなくすには、こうして地道に呼びかけることが大切だと思います」と話していました。この取組は25年前から行われており、当日は那賀川中学校シンフォニックバンド部による人権コンサートも行われました。

## 「エコパーク阿南」の工場棟が完成 11月18日から可燃ごみ等の搬入始まる



小勝島に整備を進めている新ごみ処理施設「エコパーク阿南」の工場棟建設工事がほぼ完成し、10月31日に火入れ式が行われました。11月18日からは、可燃ごみや粗大ごみの搬入が始まっています。火入れ式には、市職員をはじめ工事関係者など28人が出席し、操業の無事と安全を祈願しました。神事の中で行われた火入れの儀で、岩浅市長と㈱タクマ執行役員プラント建設センター長の平松良健さんがパーナード着火用のスイッチを押すと、会場に設置されたモニター画面に炎が映し出され、参列者から拍手が起こりました。工事の進捗率は約94%（10月末現在）で、試験焼却を経て、平成26年4月から本格稼働する予定です。

## 資源のリサイクルにご協力ください 家庭ごみ分別ガイドブックを作成



ごみの分別に対する理解を深めてもらおうと、市では、分別ルールや出し方のポイントなどを冊子にまとめた「阿南市家庭ごみ分別ガイドブック」を作成し、11月6日から全戸配布しました。このガイドブックは、11月からの新ごみ処理施設「エコパーク阿南」の試運転開始に合わせて作成されたもので、大きさはA4判、72ページのカラー刷りで編集されています。家庭ごみの分別方法やごみを出す際の注意点などをイラストを交えて紹介しているほか、1224品目の分別区分を五十音順で掲載しています。ごみの減量化と資源化を進めるため、分別にご協力ください。

## 一般国道55号阿南道路(津乃峰町西分～橘町大浦) 11月2日に開通



小松島市大林町森ノ本から阿南市橘町青木を結ぶ一般国道55号阿南道路(18.4km)のうち、津乃峰町西分から橘町大浦までの1.7km(暫定2車線)の道路工事が完成し、11月2日に開通しました。橘小学校で行われた開通式で、岩浅市長は出席した約160人を前に「四国の経済を支える電力会社が立地する橘町まで阿南道路が通じたことは大変意義深いことです」と力強くあいさつを述べました。大谷山トンネル入り口付近で行われた開通セレモニーには、地元住民など約600人が集まり、テープカットなどで開通を祝いました。テープカットをした四宮菜花さん(橘小6年)は「たくさんの方が橘町を訪れて、まちが活気づいてほしいです」と笑顔で話していました。

## 内原町出身の東洋画家・加藤松林人展 市内外から多くの人が作品を鑑賞



内原町出身の東洋画家・加藤松林人が描いた名画を県民に広く知ってもらおうと、11月4日から6日間、とくぎんトモニプラザで加藤松林人展が開催されました。これは市制施行55周年記念事業として行われたもので、会場には戦前の朝鮮半島の風景や風俗が美しく描かれた41点が展示されました。訪れた人はお気に入りの作品の前で立ち止まり、じっくりと鑑賞していました。小西富美代さん(83歳・横見町)は「どの絵も色づかいが美しく繊細なので、見とれてしまいます」と感心していました。初日の11月4日には、開会セレモニーと美術史研究者で医師の姜健栄さんによる記念講演会も行われました。

## 一人ひとりが輝ける社会の実現をめざす 福井中人権劇で共同参画を訴える



昭和59年から毎年1回行われている福井中学校2年生による人権劇が、10月27日の「第15回福井町ふるさと人権フェスティバル」で上演されました。演目は「光り輝くとき」。過去30作で、初めて男女共同参画をテーマに取り上げました。舞台では、仕事で休めない妻に代わって育児休暇を取った夫が、周囲のうわさや親族の抵抗を乗り越え、「子どもをみんなで育てよう」と応援されるまでの姿が描かれました。生徒たちは、舞台を通して男女が協力し合える社会の実現を訴えました。人権教育主事の梶尾純一先生は、「一人ひとりに光が当たり、それぞれが輝くことのできる男女共同参画社会をつくってほしい」と、26人に熱いまなざしを送っていました。

## 那賀川中学校で宇宙教育を実施 エネルギー開発の最前線を学ぶ



石油などの化石燃料の枯渇が心配され、エネルギー問題に焦点が集まる今、エネルギー問題について考えようと、10月30日、那賀川中学校でJAXAから講師を招いて授業が行われ、2年生101人が「宇宙太陽光発電と宇宙環境」について学びました。JAXAで宇宙太陽光発電の開発を行う田中孝治さんは、未来エネルギーとして期待される宇宙太陽光発電の研究・開発の最前線を紹介。地球にやさしく、自然の影響を受けにくい利点の一方、コストが高いなどの課題も説明しました。エネルギー問題に関心がある濱田葵さんは、「知らないことが多かったです。宇宙太陽光発電が近い将来実現してほしいです」と話していました。